

平成24年度 第1回校務改善推進会議

(議事録の要旨)

日時：平成24年5月31日(木)
午前10時30分～正午
場所：東京都庁第二本庁舎31階
特別会議室22
事務局：教育庁人事部職員課任用係

1 小・中学校で学校経営支援組織を設置した事例の報告より

(小学校の事例より)

- 本校では、校長・副校長・主幹教諭・事務職員・用務職員を構成員とした「経営支援組織」を設置した。
- 主幹教諭が2名なので、校務分掌組織を大きく2つに分け、調整・統合した。経営支援組織の構成員が分掌の主任を受け持つことで、分掌全体の動きが的確に把握できるようになった。
- 校長室便りを発行し職員への周知徹底を図っている。校長のリーダーシップが大切。
- 去年の人事部発表会で報告のあった、文書起案の際にOJT担当者を文書決裁回付ルートに位置付ける「決裁システム」を導入した。若手教員が主幹教諭・主任教諭に相談したりアドバイスを受けていたりすることで、OJTの視点からも学校経営上の効果が上がっている。
- 小規模校でも業務の絶対量が変わらない点について、業務量を減らすことや業務効率を上げることにより、多忙感の解消を図るべきである。
- 管理職の決裁が必要な調査物等の文書処理や、夜間・休日の施設開放に伴う事務処理などの本来社会教育が担うべき仕事については、事務職員や用務職員との役割分担だけでは進まず、区市町村における業務の見直しも必要である。
- 事務職員及び用務職員の理解をどのように保つかがポイントである。
- 人事異動に絡む引継ぎや支援体制づくりが必要である。
- 校務分掌の集約化などの見直しが有効である。

(中学校の事例より)

- 本校では、校長、副校長、主幹教諭(教務)、教務副主任(主任教諭)、事務職員(都・区)、栄養士、用務職員(正規・再任用・再雇用)の10人で構成する「経営支援組織」を設置した。
- 毎週金曜日の2校時に経営支援組織の連絡会を開催し、今後2週間の学校全体・職員・授業や生徒の動き、予算執行や施設修理、給食関連事務などを連絡している。
- 用務主事の意見が吸い上げられ易くなり、教員との意思疎通が進み、改善も進んでいる。
- 副校長が次週の予定を毎回準備するのには、校務支援ソフトウェアなどのIT活用により、効率化を図っている。

2 事務職員・用務職員の経営参画について

- 事務職員・用務職員がキー・パーソンであり、副校長がうまく采配することで大きな力となる。
- 現在50代、60代のベテランの事務職員の経験豊富な力が、あと10年で大幅に減る。
- 校長・副校長のサポートとなるように、事務職員の研修を積み重ねて育成する必要がある。
- 事務職員が一人前になるまでの研修プランやキャリアプランを作る必要がある。

3 校長のリーダーシップについて

- 副校長の職務や学校全体の組織を変えていく状況の中で、校長がリーダーシップを発揮するとともに、校長はどうあるべきかを新たな課題として取組むことが大切である。
- 副校長に寄り過ぎた仕事を見直す必要がある。

4 非常勤職員情報提供システムについて

- 「PASシステム^{*1}」は知っていても、「非常勤職員情報提供システム^{*2}」という講師のマッチングシステムができたことについては、十分知られているとは言えない。
- 副校長の机上のパソコンで、(セキュリティ上の関係で)利用できない区市町村がある。都内一律に同じように利用できるようなシステムにしていく必要がある。
- 未登録の時間講師の登録を進め、例えば特任の講師を選ぶプロセスなどの工夫した使い方も探るべき。

5 その他

- 校務改善に関するアイデアなどをニュースにまとめ、事務局が発行する。

^{*1} 「PASシステム」は、インターネットを利用して、一連の時間講師及び臨時的任用事務を行うシステムである。正式名称は、「非常勤講師・嘱託員・臨時的任用教職員斡旋任用支援システム」。
PAS (パス) は、Part-time (非常勤) Appointment (任用) Support (支援) の頭文字を組み合わせた通称。

^{*2} 「非常勤職員情報提供システム」は、インターネットを利用して、WEB上で非常勤職員の募集サイトから各学校と時間講師・産育休代替教職員の双方向でのマッチングを図り、時間講師・産育休代替教員の任用を効率化することを目的として平成24年3月下旬に稼動したシステムである。